

# 保育の表現指導を豊かにする 「歌のしかけ絵本」についての一考察

—保育者養成課程における  
「保育内容演習表現」の授業実践を通して—

東 ゆかり（初等教育学科）・薩摩林 淑子（初等教育学科）・山成 美穂（初等教育学科）

## A Study of Pop-Up Song Books Used to Enrich ECEC with Respect to “Expression”: Through a Practicum Pertaining to “Expression” in the ECEC Teacher Training Course

Yukari Azuma, Sumiko Satsumabayashi and Miho Yamanari

Department of Primary Education, Kamakura Women's University Junior College

### Abstract

This paper explores a pop-up song book practicum, which pertains to “Expression” in the Early Childhood Education and Care (ECEC) Teacher Training Course, applying previously acquired fundamental skills related to music, arts, and crafts. In the practicum, students design and create books to be used in their future situations, such as during student teaching and thereafter in workplaces. Analyses of completed books and interviews about the creative process reveal that students create books by trial and error, as they incorporate their own childhood memories and abundant knowledge gained from other classes.

Key words: expression, pop-up song book, ECEC teacher training course

キーワード：表現、歌のしかけ絵本、保育者養成課程

### はじめに

現在、平成29年度告示の3法令（『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』）に基づき教育課程の見直しが行われている。そこで本研究では、筆者らが担当している「保育内容演習表現」について幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の一つである「豊かな感性と表現」に焦点をあてて授業分析を行った。この授業は、短期大学部1年生対象の秋

Semester開講科目であり、これに先立ち春 Semesterに開講されている「音楽①」「図画工作」で培った基礎技能を用いて、実習や就職後の保育現場で活用できる「歌のしかけ絵本」の制作をおこなっている。学生の作品と作品発表会の録画ビデオの分析、更に発表会で独創性の高かった作品についての学生インタビューを行い、シラバス分析からは読み取れない学生の学びの実態について検討を行った。本研究を実施するにあたっては、

事前に鎌倉女子大学研究倫理委員会に計画及び詳細内容を提出し承認を得ている（鎌倫-17013）。また「歌のしかけ絵本」（「バスごっこ」）の制作・発表者5名とインタビューを実施した3名には、口頭及び文書で研究内容の説明を行い、書面によるデータ使用に関しての承諾を得ているものである。

## 1. 研究方法

まず、平成28年度秋 semester 開講の「保育内容演習表現」の授業で制作された「歌のしかけ絵本」と作品発表会の録画ビデオの中から、同じ曲が選曲され異なる表現方法で作られた5作品について、作品と発表方法の特徴の検討、比較分析を行なう。次に、異なった特色のある3作品に焦点をあて、それらの表現方法について作品と発表方法の特徴を捉えるとともに、制作・発表者である学生に、制作の過程や発表における思いと、保育現場での実践に関してインタビューを行う。それらの分析・考察を通して、「保育内容演習表現」の授業で取り組んだ手作りの「歌のしかけ絵本」を用いた表現活動について、授業実践の教育的意義・有効性・課題・展望を検討し考察する。

〈インタビューについて〉

インタビューは平成29年7月12日、7月25日、7月26日の3日間、本学大船キャンパスで実施された。対象学生は3名で、1人約30分間行われた。インタビューはICレコーダーに録音し、発話内容を文字化してデータとした（【表6】【表7】）。インタビュー項目は【資料】の通りで、①～⑧については3名全員に、⑨～⑪については実際に現場で実践した学生1名にインタビューを行った。

### 【資料】インタビュー項目

#### 【制作課程において】

- ①指定された曲集の中から、なぜその曲を選んだのですか？
- ②指定された技法の中から、なぜその技法を選んだのですか？
- ③絵本のしかけを作るにあたり、どのような考えで作りましたか？

④制作にあたり、子どもに見せる教材として特に配慮した点はどの部分ですか？

#### 【作品発表会について】

- ⑤作品発表会に向けどの点に配慮して練習しましたか？
- ⑥自分の発表を終えて、どのような感想を持ちましたか？
- ⑦作品発表会で他の人の発表に触れ、気付いた事や感じた事がありましたか？
- ⑧自分の制作物と発表方法の特徴・魅力について、聞かせて下さい。

#### 【保育現場での実践について】

- ⑨どのような状況で実践しましたか？
- ⑩実践してみて、その時の子ども達の反応はいかがでしたか？
- ⑪実践してみて、どのような感想を持ちましたか？何か課題はありましたか？

## II. 5つの「歌のしかけ絵本」の比較分析：

「バスごっこ」の分析

本章では、「バスごっこ」を選曲して制作された5つの作品について（以下作品1、作品2、作品3、作品4、作品5と表記する）、「しかけ」「素材」「技法」「作品の発表」の4つの観点から比較分析を行った。

### II-1. 「しかけ」

歌のしかけ絵本制作には必ず1つ以上のしかけを入れるルールが決められている。作品1から作品5には、それぞれの学生の判断によって〈しかけの数〉〈しかけの場所〉〈しかけの内容〉に違いが見られた。

【表1】〈しかけの数〉

作品1	作品2	作品3	作品4	作品5
4	8	14	11	2

【表2】〈しかけの場所〉

作品1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1番の山場（おとなりへ～）</li> <li>・1番の終わり（おわりの～）</li> </ul>
-----	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 番の山場 (よこむいた～)</li> </ul>
作品 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 番のはじまり (おおがたバス～)</li> <li>・ 1 番の山場 (おとなりへ～)</li> <li>・ 1 番の終わり (おわりの～)</li> <li>・ 2 番のはじまり (おおがたバス～)</li> </ul>
作品 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 番のはじまり (おおがたバス～)</li> <li>・ 1 番の山場 (おとなりへ～)</li> <li>・ 2 番のはじまり (おおがたバス～)</li> <li>・ 2 番の山場 (よこむいた～)</li> <li>・ 3 番のはじまり (おおがたバス～)</li> <li>・ 3 番の山場 (ごつつんこ～)</li> </ul>
作品 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 番のはじまり (おおがたバス～)</li> <li>・ 1 番の山場 (おとなりへ～)</li> <li>・ 1 番の終わり (おわりの～)</li> <li>・ 2 番のはじまり (おおがたバス～)</li> <li>・ 2 番の山場 (よこむいた～)</li> </ul>
作品 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 番のはじまり (おおがたバス～)</li> <li>・ 1 番の山場 (おとなりへ～)</li> </ul>

【表 3】くしかけの内容 (論文末参照)

しかけの形状やしくみは、「動かすことができる」「取り外しできる」「引っ張る」「入れる」など様々なものが見られ、幅広い造形表現のしかけが取り入れられていた。

## II-2. 「素材」

使用する素材には特に規定はないが、幼児にとって親しみがあり、幼児も扱えるような身近な素材を中心に、学校で用意されたもの、それ以外に各自で好きな素材を追加することも認めている。作品 1 から作品 5 に使用された素材は以下のとおりである。

【表 4】素材の比較一覧表

	学校で用意された素材	各自で追加した素材
作品 1	画用紙、色画用紙、折り紙、はさみ、のり、ボンド、割りピン、マーブリ	フェルト、T シャツ生地、マジックテープ、幅広透明テープ、刺繍糸、

	ング絵の具	縫い糸、クレヨン、絵の具、サインペン
作品 2	画用紙、色画用紙、折り紙、はさみ、のり、ボンド、マーブリング絵の具	綿、モール、ポンポン、絵の具、白ペン
作品 3	画用紙、色画用紙、折り紙、はさみ、のり、ボンド、割りピン、マーブリング絵の具	フェルト、毛糸、竹ひご、リボンテープ、絵の具
作品 4	画用紙、色画用紙、折り紙、厚紙、はさみ、のり、ボンド、割りピン	磁石、クレヨン、絵の具
作品 5	画用紙、色画用紙、折り紙、はさみ、のり、ボンド、クラフトパンチ	フェルト、綿、紐、割り箸、コルクの蓋、磁石、絵の具、色鉛筆、サインペン

【表 4】を見ると、学校で用意された素材の他に学生が追加した素材の内容は、自宅にある日用品か、100円ショップ等の安価な雑貨店で購入可能なものが多く、学生の負担になるような特別なものは使われていなかった。5つの作品で使用されている素材は、作品ごとに特色があり、学生それぞれの発想や工夫、好みにあった素材を自由に選んで使用していることが分かった。

## II-3. 「技法」

「歌のしかけ絵本」制作の作画には、必ず図工の授業で習得した以下の12のモダンテクニック(描画の技法)から3種類以上を用いて描くことが決められている。

- ①マーブリング ②スクラッチ ③パチック  
 ④ぼかし ⑤ドリッピング ⑥吹き流し ⑦デカルコマニー ⑧フロッタージュ ⑨スタンピング ⑩コラージュ ⑪フィンガーペインティング ⑫スパッターリング

モダンテクニックは、小・中学校の図工や美術教科書にも紹介されている技法である。これらの多くは、保育・幼児教育の現場でも、造形遊びや技法遊びとして役立てることのできるものである。作品1から作品5で用いられているモダンテクニックを比較すると、モダンテクニックの数と内容には、しかけや素材ほどの差はみられない。(【表5】参照)しかし、技法内容の用いる数の違いが「歌のしかけ絵本」の作風の違いに少なからず影響を与えていたことが分かった。

【表5】モダンテクニックの比較一覧表

	用いた技法数	作画に用いた技法の種類
作品1	4	①、②、⑩、⑫
作品2	5	①、⑥、⑩、⑪、⑫
作品3	4	①、③、⑩、⑫
作品4	4	①、④、⑩、⑫
作品5	3	⑤、⑩、⑫

#### II-4. 「作品の発表」

作品発表は、「歌のしかけ絵本」を机や譜面台に置く、あるいは直接手で持ち、他の学生が演奏するピアノ伴奏に合わせて歌いながら絵本をめくり、しかけを動かす。以下、3つの観点から比較分析を行う。

##### 〈観点1：演奏テンポ〉

「バスごっこ」は楽譜に(♩=126ぐらい)と速度指定があり、快活で明るい曲調である。5作品の発表時の演奏テンポには違いがあり、作品1では♩=122位、作品2・作品3・作品5は♩=106位、作品4は♩=85位であった。作品1の演奏テンポは指示されたテンポに最も近く、快活で動きが感じられた。作品2・作品3・作品5は、作品1よりやや遅いが、快活な感じを損なわない程度に少し遅くしたテンポである。作品4は指示されたテンポよりかなり遅く、快活というよりゆったりしたものになっていた。

##### 〈観点2：切符のしかけの動かし方〉

5作品全てにおいて、歌詞「おとなりへ ハイ」の部分で切符や切符を持つ手にしかけが施されて

いた点が共通していた。この部分は、「切符を順にわたしてね」の歌詞の後に「おとなりへ ハイ」が4回繰り返される最も特徴的な場面である。作品1では、発表者の学生は大きいサイズの切符を自分の手に持ち、発表を聴く友人たちに向かって「ハイ」のタイミングでダイナミックに切符を差し出す身ぶりを行った。作品2では、切符を持つ乗客の手を曲のリズムにあわせて左右に動かした。作品3では、乗客の手が棒で繋がっていて、それを横にスライドさせて同時に動かした。作品4では、発表者は切符のしかけを、「ハイ」のタイミングに合わせて4人の乗客の膝の上にくっつけたり外したりして順に置いていった。作品5では、発表者が紐を横に引っ張ることで、切符が乗客の手から手へと横にスライドしていく動きが用いられた。

以上のように、5つの作品全てにおいて共通していた点は、「ハイ」のタイミングでリズムに合わせて動かそうとする意識が働いていたことである。特に作品1の発表においては、身ぶりがダイナミックで、リズム感やタイミングも絶妙であった。作品2、作品3、作品4は絵本内で切符のしかけを動かすため、動かし方自体は小さいが、タイミングがあっているためにリズムカルに感じられた。作品5については、「ハイ」のタイミングに合わせて動かすことができず、リズムにのりきれない印象があった。

##### 〈観点3：バスの動かし方〉

5作品全てにバスの絵・しかけがあり、作品1以外は、バス自体が動くように作られている。また、曲の冒頭の歌詞「大型バスにのってます」(1～3番共通)でバスを動かす点が共通しているが、その動かし方について違いが見られた。

まず作品2では、「大型バスにのってます」のすぐ後の歌詞、「切符を順にわたしてね」(1番)、「だんだん道がわるいので」(3番)の2か所でバスを上下に動かしているが、動かし方が小刻みで曲のリズムと合っていなかった。作品3では、歌詞「大型バスにのってます」(1番)でリズムに合わせて左右にゆったりと動かすが、バスが動く幅が狭いため動きが大人しい印象を受ける。続く「大型バスにのってます だんだん道がわるいので」

で」(3番)では、新たな小さめのバスのしかけが出てきて、1番の時よりもやや速いテンポで動かす。すなわち1番と3番の歌詞で動かし方を変化させていた。作品4では、「大型バスにのってます だんだん道がわるいので」(3番)の部分のみバスを動かすが、リズムに合わせてバスを斜め上、斜め下に細かく動かし、歌詞の内容と動きのタイミングが合致していた。作品5では、持ち手のついたバスを絵に描いた道で動かすが、手首も使ってリズムカルに自由に動かしているため躍動感が感じられる。最後に、作品1(唯一バスの絵がしかけではなく、動かない)については、「大型バスにのってます」(1番、2番)の部分で、バスは動かないが発表者自身が体を横に揺らしながらリズムにのって歌っており、曲の快活さやリズム感を自分の身体の動きで表現していた。

以上のように、作品の発表では、バスや切符のしかけをリズムに合わせて動かすものと、リズムを意識しないで動かすものがあり、更に、歌詞の内容をふまえて動かすものと、歌詞の内容をふまえずに動かすものがあることが分かった。

## II-5. 比較分析の考察

「しかけ」「素材」「技法」における作品制作の分析をすると、どの観点においても作品1～作品5の5つの作品それぞれの制作者が独自の選択判断と個性を発揮している。このことから、一人一人の学生の自由な発想と自発的な創意工夫を重視するプロセスを経て制作が行われていることが分かった。「歌のしかけ絵本」制作では、定まった模範解答となるお手本はなく、学生が自分で考え、自分なりの教材づくりを実現させているのである。

また、作品の発表の特徴を分析すると、5つの作品は全て異なる動かし方をしていたが、特に曲のリズムに合った動かし方ができているかという点に関して大きな差異があった。曲のテンポやリズムを体で感じ、リズムに合った動かし方(表現)をするためには、学生個人の持つ音楽的資質や能力(特にリズム感)が大変重要な要素となる。発表の特徴の分析から、学生の音楽的な表現力向上のための指導内容の充実が、より必要であること

が明らかになった。

## III. 3つの「歌のしかけ絵本」の事例分析

本章では、異なった特色のある3つの作品に焦点をあてて分析を行う。(以下、Aさん、Bさん、Cさんと表記する)それぞれの作品及び発表の特徴を明らかにし、最後にインタビューの分析及び考察を行う。

### III-1. Aさん「バスごっこ」：作品及び発表の特徴

Aさんは、前述の、II. 5つの「歌のしかけ絵本」の比較分析、の中で取り上げられた、作品1の制作者である。発表の方法に特色のある事例である。

#### 〈作品の特徴〉

表紙の文字が大きく、幼児が曲名を読みやすく工夫されている。表紙中央には、大きな笑顔の運転手が配置され、明るく親しみやすい雰囲気である。歌詞のページはシンプルな表現で統一され、絵のページの印象が際立つ。大半の絵のページは、絵の具、クレヨンで描かれ、手描きの親しみやすさが感じられる。また、人間以外の建物やバスにも愛らしい表情の目が描かれており、幼児に人気のある動物が登場し、幼児の喜びを喚起する表現になっている。しかけは、切符を取り外してポケットに出し入れできる仕組みや、目がくるくる回る仕組みがあり、動きのある作品となっている。

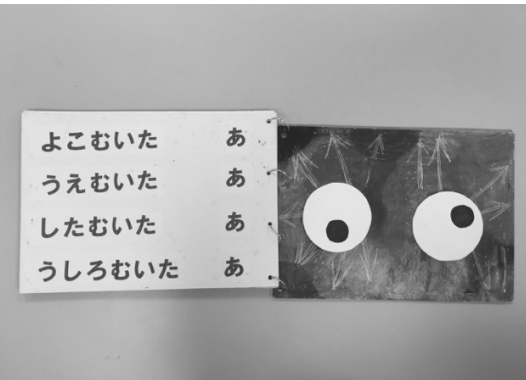
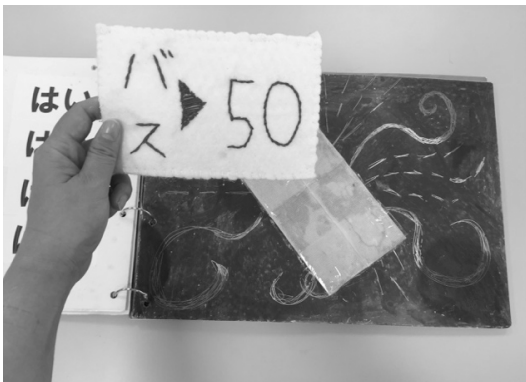
#### 〈発表の特徴〉

身ぶりや動作を効果的に活用して演じていた。「バスごっこ」の曲調である快活さ、明朗さを明るい表情で、リズムに合わせて体を横に揺らしながら歌うことで表現していた。「切符を順にわたしてね」の場面では切符を自分の手で持ち、発表を聴いている友人達の方に「ハイ」のタイミングで切符を差し出すダイナミックな身ぶりを行った。また、「いろんなとこが見えるので」の歌詞では、右手をおでこにあてて遠くを見る仕草をし、「ねむった」の歌詞では、合わせた両手を頬にあて「おやすみ」の仕草を行うなど、絵本の中身やし

【画像 1】



【画像 2】



かけだけではなく、自らが絵本の一部となり、身ぶりや仕草を用いて動きのある表現をしていた。

### Ⅲ-2. Bさん「おもちゃのチャチャチャ」：作品及び発表の特徴

Bさんは、本物のカスタネットを「歌のしかけ絵本」の中に組み込んでおり、楽器と手作り教材を合体させた特色のある事例である。

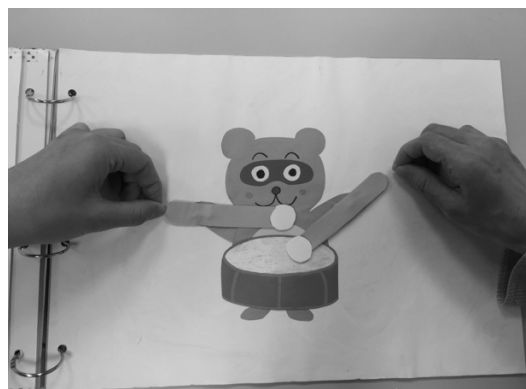
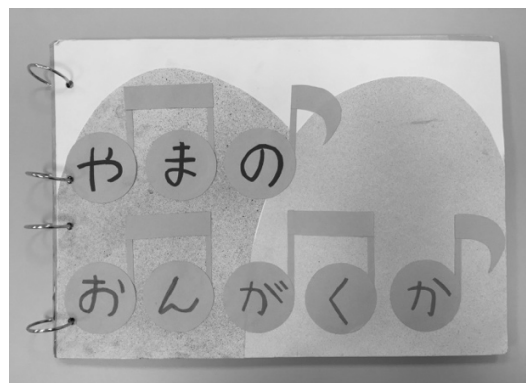
#### 〈作品の特徴〉

表紙は一見したところシンプルで、曲名のみが目立つ表現であるが、表紙上にめくるしかけがあり、絵本のはじまりが楽しみに感じられた。歌詞のページは、文字の周囲が色鮮やかに縁取られ、活気のあるイメージが強調されている。歌詞の背景はパステルカラーのマール模様で統一され、華やかである。絵のページは、色画用紙とフェルトを用いたコラージュの技法で表現され、シルエットがはっきりとしたポップな絵柄となっている。紐をひっぱると、動物達がおもちゃ箱から飛び出したり、手作り人形をポケットに出し入れすることができるしかけになっている。また、裏表紙には取り外し可能な手作り人形がついており、凝ったしかけが豊富に盛り込まれていた。その他に、画面全てのページに本物の楽器カスタネットが登場し、歌のどの部分を歌っても自由に音を鳴らすことができる工夫がされていた。絵本全体がおもちゃ箱のような印象を受ける作品であった。

#### 〈発表の特徴〉

この絵本の1番の特徴は、組み込まれた本物の楽器であるカスタネットを効果的に用いて演じている点である。「おもちゃのチャチャチャ」では、チャチャチャという言葉が繰り返し何度も歌われるが、それが出てくるタイミングで、チャチャチャのリズムに合わせてカスタネットを鳴らしていた。発表では、カスタネットの明るい音色が、歌やピアノと一緒に心地よく響いており、カスタネットの音色やリズムを用いて曲の雰囲気や歌詞を効果的に表現していた。

【画像3】



### Ⅲ-3. Cさん「山の音楽家」：作品及び発表の特徴

Cさんは自分で作った「歌のしかけ絵本」を保育現場で実演した実践的な特色のある事例である。

#### 〈作品の特徴〉

表紙は、淡い緑色の背景に対して曲名が補色のピンク色で表現されて印象深く強調されている。歌詞のページは上下を水玉模様で縁取りし、爽やかで可愛い雰囲気となっている。絵のページは、青空と青々とした山が描かれている絵柄と、柔らかなパステルカラーのマーブル模様の背景による2パターンがあり、それらが交互に現れるように構成されている。山が描かれているページでは必ず動物と楽器が登場し、パステルカラーのページでは動物が楽器を奏でる様子が描かれ、どちらのパターンも色調が明るくなっている。マーブル模様の色調は、音楽がなめらかに流れ出るようなイメージを表現しており、音符が流れ出す、太鼓を叩くなどのしかけによって演奏のイメージが膨らんでいった。幼児が、音楽演奏を楽しくイメージできる作品となっていた。

#### 〈発表の特徴〉

しかけを動かす場面、絵を見せる場面の対比がはっきりしており、全体的に動きに安定感のある発表となっていた。しかけを動かす場面は2つで、残りは動物と楽器と一緒に描かれている。しかけを動かす場面（バイオリンから音符が出てくる場面とたぬきが太鼓を叩く場面）では歌詞に合わせてタイミングよく動かしており、動物と楽器の絵のみの場面では全く絵本を動かさずに、絵をじっくりと見せながら歌っていた。

### Ⅲ-4. インタビューの分析と考察

（インタビューの内容は論文末【表6】【表7】参照）

インタビューは、同じ質問を同じ時間内で個別に回答してもらう形式で実施した。インタビューのなかで、なぜこの曲を選曲したかを尋ねたところ、3名全員が自分の子ども時代の思い出につい

て語っており、幼稚園や保育所で歌った曲が、彼女たちの心の中に楽しかった思い出として記憶されていた。子どもの教材づくりとしての「歌のしかけ絵本」制作をする上で、彼女たちは自らの子ども時代の経験や感情を大切に捉えており、今現在の大人としての視点と、自分自身の子ども時代の視点の両方を意識していることがわかった。まだ保育現場で実際の子どもたちとほとんど触れていない学生にとって、このように自らの子ども時代を手掛かりにしようとする姿勢は、課題に対する積極性として評価できる。

「図画工作」の時間で培った技術については、モダンテクニックのそれぞれの技法の特徴を意識しながら制作したことが分かり、前期に学習した基礎技能の応用・発展として、この授業実践が有効であることが明らかになった。また、歌のしかけ絵本の制作にあたり、「フェルトを用いて温かみを出す」、「割りピンを用いて歌詞から受けるイメージを実現する」、「子どもが親しみを感じる色合いを用いる」等、造形表現における素材研究としての役割を果たしていることが分かった。

「音楽」の時間に培った技術については、歌やピアノについては発表に向けての事前練習での苦労した様子も語られたが、「音程やリズムに気を付けて練習した」など、音楽的観点に意識が向いたうえで練習していたことも分かった。発表の特徴と魅力を尋ねたところ、それぞれが自分の絵本の特徴や魅力をしっかり語っており、歌の特徴を自分なりに解釈したうえで、どのように表現するのが良いかを模索していたことが分かった。この模索は他者の作品発表を鑑賞することにより、自らの表現力の幅をさらに広げる可能性を含んでいるのではないかと考えられる。

また、授業では実習や将来の職場で使えるものを作ろうという発信をおこなっていたが、Cさんは、保育実習期間に自ら申し出て子どもたちの前で実践する機会を与えて頂いた。その際、興味を持った子どもたちに絵本を自由に触る機会を持たせる等、子どもの気持ちに寄り添う対応が行っていたことが明らかになった。

これらのことから、「歌のしかけ絵本」制作と



発表は、学生の表現技能をより上達させていくと同時に、子どもの気持ちや状況、反応を様々な角度から想像することを通して、子どもに寄り添う立場である保育者としての意識を高めていく効果があるといえるだろう。

### おわりに

今回の授業分析を通して、「歌のしかけ絵本」の授業は、保育者の資質と学生の意識を高める上で有効であることが確認された。しかし、子どもの感性を豊かに育てる保育教材としてふさわしいものであるかどうかは今後明らかにしていく必要があるだろう。今後の研究課題として、保育現場での実践研究を行い、子どもたちが「歌のしかけ絵本」に対してどのような反応を示すか、また、現場の保育者が「歌のしかけ絵本」をどのように感じるかということ調査・検討していきたい。それにより、保育の表現指導を豊かにする「歌のしかけ絵本」の、教材としての有効性を明らかにしたいと考えている。

### 参考文献

- 無藤隆・汐見稔幸・砂上史子 2017「ここがポイント！3法令ガイドブック ー新しい『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解のためにー』フレーベル館 288頁
- 文部科学省 2017『幼稚園教育要領』〈平成29年告示〉
- 厚生労働省 2017『保育所保育指針』（平成29年告示）
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』〈平成29年告示〉
- 杉原真晃・相澤千枝子・赤津裕子・東ゆかり・大西頼子・岡澤陽子・木村充子・斉木美紀子・新開よしみ・長井覚子・村上康子・山原麻紀子・山本直樹・吉永早苗・今川恭子（養成校の学びと幼稚園での実践（表現等）研究部会 2016「保育教諭に求められる資質・能力を検討するための基礎的研究 ー幼稚園教諭と保育士の養

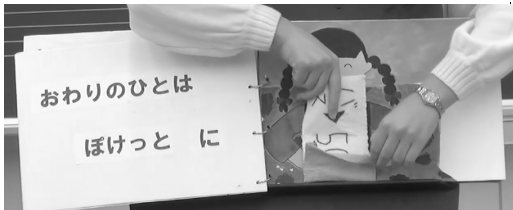

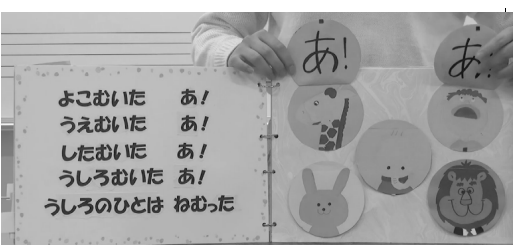
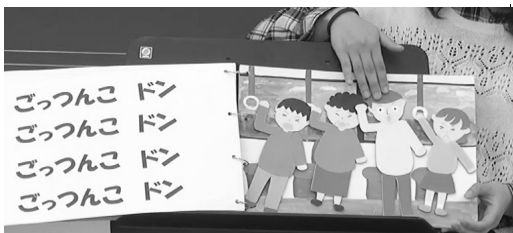

成課程における領域「表現」にかかる科目のシラバス分析ー』『保育教諭養成課程研究』第2号 pp.17-30.

- 木村充子・相澤千枝子・赤津裕子・東ゆかり・今川恭子・大西頼子・岡澤陽子・斉木美紀子・新開よしみ・杉原真晃・長井覚子・村上康子・山原麻紀子・山本直樹・吉永早苗（養成校の学びと幼稚園での実践（表現等）研究部会 2016「領域「表現」をめぐる養成校の現状と課題ーシラバス分析の報告ー」一般社団法人保育教諭養成課程研究会第3回研究大会ポスター発表要旨
- 東ゆかり・小山裕之・薩摩林淑子・パップ晶子・三縄公一・渡辺宏章 2014「こどもの歌93弾き歌いベスト曲集」カワイ出版

### 要旨

本論は、保育者養成課程の基礎技能（音楽・図工）で培った技術を使って行う授業「保育内容演習表現」における「歌のしかけ絵本」についての研究である。この授業では、完成した絵本を実習や将来の就職先で活用することを念頭に制作を進めている。完成した作品の分析と制作過程についての学生インタビューの結果から、学生が作品を作る過程で、学生自身の幼児期の体験や、他の授業で学んだ様々な知識を導入し、試行錯誤をして絵本を作り上げていたことが明らかになった。それにより、「歌のしかけ絵本」の授業が、保育者の資質を高める表現指導の一つであることが確認された。

【表3】くしかけの内容

<p>作品1</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り外しができる切符（左の写真）</li> <li>・切符を入れられるポケット（左の写真）</li> <li>・2つの目がそれぞれくるくる回る</li> </ul>
<p>作品2</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスのドア開きカエルが見える</li> <li>・黄色のバスがリズムに上下に動く</li> <li>・切符を持った4匹の動物の手が左右に動く（左の写真）</li> <li>・切符をもった動物の手がポケットに入る</li> <li>・バスのドアが開きトラが見える</li> <li>・赤いバスが上下に動く</li> </ul>
<p>作品3</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バスが前後に動く</li> <li>・画面上に切符を貼り付けることができる</li> <li>・4匹の動物と少年の手が繋り、左右に動く</li> <li>・バスが画面左から右へとスライドする</li> <li>・4匹の動物と少年の絵がめくれ、歌詞の内容に合わせて動作が変化する（左の写真）</li> <li>・バスが上下に動く</li> <li>・画面上の4カ所に4つの星が貼りつく</li> </ul>
<p>作品4</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画面上の切符が取り外し可能</li> <li>・切符をリズムに合わせて4人の登場人物の膝の上にくっつけたり外したりできる</li> <li>・ポケットの中に切符をしまう</li> <li>・バスが上下に動く</li> <li>・バスの中の4人の登場人物がそれぞれ別個に左右に動く（左の写真）</li> </ul>
<p>作品5</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持ち手のついたバスを絵本の中で動かす（左の写真）</li> <li>・紐を引っ張ると切符が左から右にスライドする</li> </ul>

【表6】インタビュー内容；【制作過程において】①～④、【作品発表会について】⑤～⑧。

Aさん「バスごっこ」	Bさん「おもちゃのチャチャチャ」	Cさん「山の音楽家」
①指定された曲集の中から、なぜその曲を選んだのか？		
<p>この曲が子どもの頃から好きだった。手遊び歌にしたり、保育所やテレビの子ども向け番組で聞いて大好きだった。クラスにこの曲を選ぶ友人が誰もいなかったから。</p>	<p>誰も作ったことのない楽器付きの絵本を作ってみたかった。子どもの頃に、チャチャチャの部分で手を叩いたり楽器を使ったことを思い出して、しかけが浮んだ。</p>	<p>子どもと一緒に歌って楽しいと思った。子どもの頃からキュキュなど擬音語が出てきて面白いと思っていた。作ってみたい絵本が思い浮かぶ曲だった。</p>
②指定された技法の中から、なぜその技法を選んだのか？		
<p>コラージュは、家で制作しやすい。スパッタリングは、学校でやる技法として選んだ。難しい技法なので克服したかった。スクラッチは、歌の一番印象的な部分で、目立つと考えた。緑や紫などの明るい色を使い、春に習った技法を自分なりに応用した。マーブリングは明るいポップな雰囲気を表現するのに合う技法だから選んだ。</p>	<p>コラージュの技法は直接描くのと違い、何度もやり直しがきいて作りやすいと思った。マーブリングは、可愛らしい表現だから選んだ。マーブリングは色のニュアンス可愛らしく、歌詞の雰囲気に合い、良いと思った。マーブリングは作業もとても楽しく、やりたかった。スパッタリングは黒い画面に映えて美しいと思った。</p>	<p>スパッタリングは山の色を濃淡で表現できる。コラージュは、絵を描くのが苦手でも表現しやすい。型紙を作って量産できた。パチックは、青空と白い雲を表現しやすい。春の図工で成功したからやりたかった。マーブリングは、模様が音楽の流れみたいで面白いと感じた。音符のイメージには輪郭がないぼかし絵の表現が良かった。</p>
③絵本のしかけを作るにあたり、どのような考えで作ったか？		
<p>小さい時に、「おとなりへ」の部分で、手遊びで切符を渡すまねごとをして遊んだ経験から、実際に切符を作って動かしたいと考えた。歌の中では切符を最後にポケットにしまうので、実際にポケットを絵本のなかに作りたいと考えた。しかけの中に布やフェルトを用いて刺繍したのは、自分自身が縫い物が好きだから。紙よりもフェルトなどを使った方が、保育という意味では親しみやすいと考えた。家にあったTシャツの裾を切って使った。目がくるくる回るしかけの部分は授業で先生から割りピンを提案され、活用してみた。</p>	<p>書店などで楽器が組み込まれている絵本を見て、自分でも作ってみたかった。おもちゃに動きが欲しいと感じ、紐をつけて動かせるようにもした。しかけをたくさん入れて発表する方が、演じる際に緊張せずに楽しくやれて良いと考えた。しかけがたくさんある絵本は素敵だと思う。手作りのぬいぐるみは、裁縫が好きだから取り入れた。自分の得意分野を活かすことができた。フェルトや布の素材を使い、温かみを出したいと思った。絵本づくりの材料は紙だけではなく、自分に身近な布を使っても作れることが自分自身の励みに感じた。</p>	<p>しかけは音符が出てくるしかけと、太鼓が動くしかけの2つを作った。マスクの紐やテグスなど素材を工夫した。音符がでてくるしかけは、演奏するシーンでリスとバイオリンから音符がパーっと散っているようなイメージが湧いたから作った。音符がでてきたら面白いと思い挑戦した。音符はカラフルにしたら可愛いだろうと考えた。太鼓が動くしかけは、ポコポンポンと曲に合わせて太鼓のバチが動いたら面白いと考えた。太鼓のバチが動くしくみについては、先生に相談した際に割りピンを紹介されて、活用した。</p>

Aさん「バスごっこ」	Bさん「おもちゃのチャチャチャ」	Cさん「山の音楽家」
④制作にあたり、子どもに見せる教材としてとくに配慮した点はどのような部分か？		
<p>子ども達に馴染みがある折り紙を切って貼った。切符の素材にフェルトを使うことで温かみを感じさせようとした。子どもに切符を渡す身ぶりを取り入れ、子どもが、絵本の一部として参加して楽しめるようにと考えた。ただ見て歌うだけでなく、「子ども参加型」にしたいと考えた。</p>	<p>現場で子どもが触ることに配慮した。ぬいぐるみは、乳児が見ても優しい質感として作った。頁の周囲に保護テープを貼り、手が触れた時に怪我しないようにした。絵本の色は明るくし、表情が可愛い動物を登場させ、明るく可愛らしく温かみの感じられるものにしたいと心がけた。</p>	<p>明るい色を使い、パッとみてわかりやすい形で表現した。楽器は写真資料等を見て制作することを心がけた。子ども達は本物の楽器を見る機会がないと思い、写真や本物に近い絵などの資料をもとに作った。子ども達が絵本を見たときに、嘘の情報が無いようにしたいと思った。</p>
⑤作品発表会に向けて、どのような点に配慮して練習したか？		
<p>ピアノ練習は授業の空き時間に、歌は低音が苦手なのできちんと歌えるよう練習した。切符のカードを実際に手に持ち、家族に見てもらって絵本をめくる練習をした。</p>	<p>手作りぬいぐるみをポケットに入れる動きを練習した。また、大きな声で歌えるように、また、「チャチャチャ」でカスタネットを正確なリズムで鳴らせるように練習した。</p>	<p>絵本をめくるタイミングを意識して、それが速すぎたり遅すぎたりしないように気を付けて練習した。歌は、音程に気を付けて練習した。</p>
⑥自分の発表を終えて、どのような感想を持ったか？		
<p>緊張したが、発表を見ていたクラスの友人達が切符を渡す場面に興味を持ってくれ、発表後もその感想を言ってくれて嬉しかった。</p>	<p>友人達が楽しそうに見てくれて、温かい雰囲気の中あまり緊張せず演じることができた。今後現場で実践することを考えると、それに向けての良い練習にもなり、もう1冊作ってみたいという気持ちにもなれた。</p>	<p>そんなに緊張するとは思っていなかったが、40人のクラスの友人達を前に演じたら、意外に緊張した。</p>
⑦作品発表会で他の人の発表に触れて、何か気付いたことや感じたことはあったか？		
<p>同じ曲（「バスごっこ」）を選んだ友人がいたが、友人は切符を絵本の中のみで動かしていた。また、自分の絵本は登場人物が人間だが友人のものは動物で、同じ曲でも捉え方が違い面白かった。また、自分はしかけ自体をシンプルに「子ども参加型」絵本にしたが、多くの友人の作品はとても立派なしかけがあり、子ども達がそれに驚いて感動しながら歌うタイプの絵本だった。</p>	<p>友人達のしかけは一つ一つがとてもしっかりと、自分が思いつかないような物も多かった。それらを自分の作品に取り入れたり、真似してみても面白いかもしれないなど感じる事が多々あった。ピアノ伴奏は、相手のテンポに合わせて相手を見ながら弾く事が難しかった。相手とよくコミュニケーションを取らないと、良い発表につながらないと思った。</p>	<p>同じ曲を選んで作っているのに、表現の仕方やアイデアが全く違うことが面白かった。例えば、自分は、動物と楽器をセットにして同じページに描いたが、友人はまず楽器があり、そこから後から動物が出てくるものだった。また、自分はパーツを全部貼って作ったが、友人の作品では取り外しができるようなしかけもあった。</p>

Aさん「バスごっこ」	Bさん「おもちゃのチャチャチャ」	Cさん「山の音楽家」
⑧自分の制作物と発表方法の特徴・魅力について。		
<p>絵本の特徴は、できるだけ身近にある折り紙・画用紙・色鉛筆を使い、効率よく低予算で、比較的単純にできる点。実際の保育現場で大がかりなしかけ絵本を作成することは難しいので、身近な物で作れる点は大切だと思う。発表方法の特徴・魅力は、「絵」にばかり気を取られないよう、子どもも自分も「歌」を楽しめるような「子ども参加型」絵本を追究した点。保育現場で演じることを想定した場合、朝の会やバス遠足の時に演じたら面白いと思うし、しかけの切符の使い方も、子ども達に順番に回してみる等いくつか考えがある。小1対象であれば、初めての遠足の時に実践する事が可能だと思う。</p>	<p>絵本の特徴は、何といても、本物の楽器「カスタネット」を絵本に入れた点。発表方法の特徴・魅力は、「おもちゃのチャチャチャ」が明るい歌なので、声を明るくしてハキハキと歌った点。</p>	<p>絵本の特徴は、動物の演奏場面のところで、実際に演奏している感じを出したかったので、フルートを吹いている・太鼓を叩いている・バイオリンを構えるという状況を出した点。また、絵の背景をすっきりさせるために、歌の1～3番の前半は山を背景に、後半はマーブリングを背景に、と統一した点。発表方法の特徴・魅力は、しかけを動かすところ以外は絵本自体を動かさないという点。しかけをあえて少なくしたので、しかけがあるところはしっかり動かし、それ以外のところは絵本を動かさずに安定させた。</p>

【表7】インタビュー内容；【保育現場での実践について】

Cさん「山の音楽家」	
⑨	どのような状況で実践したか？
	保育実習期間中の3月3日、ひなまつり会の終わりの10分間に、ピアノ伴奏なしのアカペラで実践した。歌い出しの音は歌い易い音程から始めた。広い部屋で、1～5歳児クラスの園児70人位と先生方が聴いてくれた。絵本を置くのに適した高さの机がなかったので、実習生の友人に絵本を支えてもらい、立って実践した。
⑩	実践してみて、その時の子ども達の反応はどうだったか？
	まず最初に「学校で作ってきた絵本だよ。」と言って見せると、皆とても驚き、「その歌知っている！」と一緒に歌ってくれた。太鼓をたたくしかけの受けが特に良く、歌が終わると大きな拍手が起こり、子ども達から「やってみたい！触ってみたい！」という声があがり、時間を限定して部屋に絵本を置いた。「自由に触って。」と伝えると、10人位の子ども達が喜んで絵本に触れ、「これどう動かすの？」としかけについて質問が出た。太鼓のしかけを、子どもは最初「難しそう。」と感じていたようだが、実際に触れてみて「動かせたよ！」と大喜びし、楽しそうに遊んだ。
⑪	実践してみて、どのような感想を持ったか？何か課題はあったか？
	人数が多かったので緊張したが、場数を踏むしかないと感じた。人前で歌う事は合唱団に入っているので抵抗はなかったが、絵本があると、歌うだけよりも安心感を持って歌えた。(感想)私は明るい色を意識的に使って絵本を作ったが、子ども達の多くがそれを「可愛い！」と言ってくれ、絵本に好意的な反応を示してくれたことが嬉しかった。今回はアカペラで立って実践したが、その場の状況に合わせて実践できるようにする事が大事だと思った。

(2017年9月11日受稿)